

当所のがん患者・家族支援の 取り組みについて

宮城県東部保健福祉事務所登米地域事務所(登米保健所)

○地域保健福祉部成人・高齢班	技術主幹(班長)	松本 紀子
地域保健福祉部	技術次長(総括)	岩瀬 美津枝
地域保健福祉部成人・高齢班	技 師	後藤 梓
環境衛生部 食品薬事班	技 師	高橋 由理



はじめに

- 各保健所において、がん患者・家族支援対策推進事業を実施している。
- 登米地域の現状を踏まえると今まで以上の積極的な取り組みが必要であると感じた。
- そこで、平成24年度から改めて現状の把握と課題の整理を行い、事業の見直し、強化を図ってきた。
- 登米市や登米市民病院、東北大学病院がんセンターなどの関係機関や関係者と連携し、取り組みを進め、少しずつではあるが在宅緩和ケアに対する意識の向上や関係者のネットワーク化が進んできている。

宮城県がん患者・家族支援対策推進事業

目的	がん患者及びその家族の在宅での療養生活の質の維持向上を図り、在宅医療を踏まえた療養支援を適切に行っていくために必要な体制を整備する。
実施主体	各保健所
事業内容	<p>(1)がん患者・家族地域支援推進連絡会議(以下「連絡会議」) 所管する区域における在宅緩和ケアの提供の実情を踏まえ、在宅緩和ケアに関する医療連携の推進及び在宅緩和ケアの適切な提供促進を図るため、当該区域の関係者から意見を聴取するもの。</p> <p>(2)がん患者のケア等に関する研修会(以下「関係者研修会」) 在宅で療養するがん患者及びその家族の生活の質の維持及び向上に必要な医療等に関する知識、技能等に関するもの。</p>

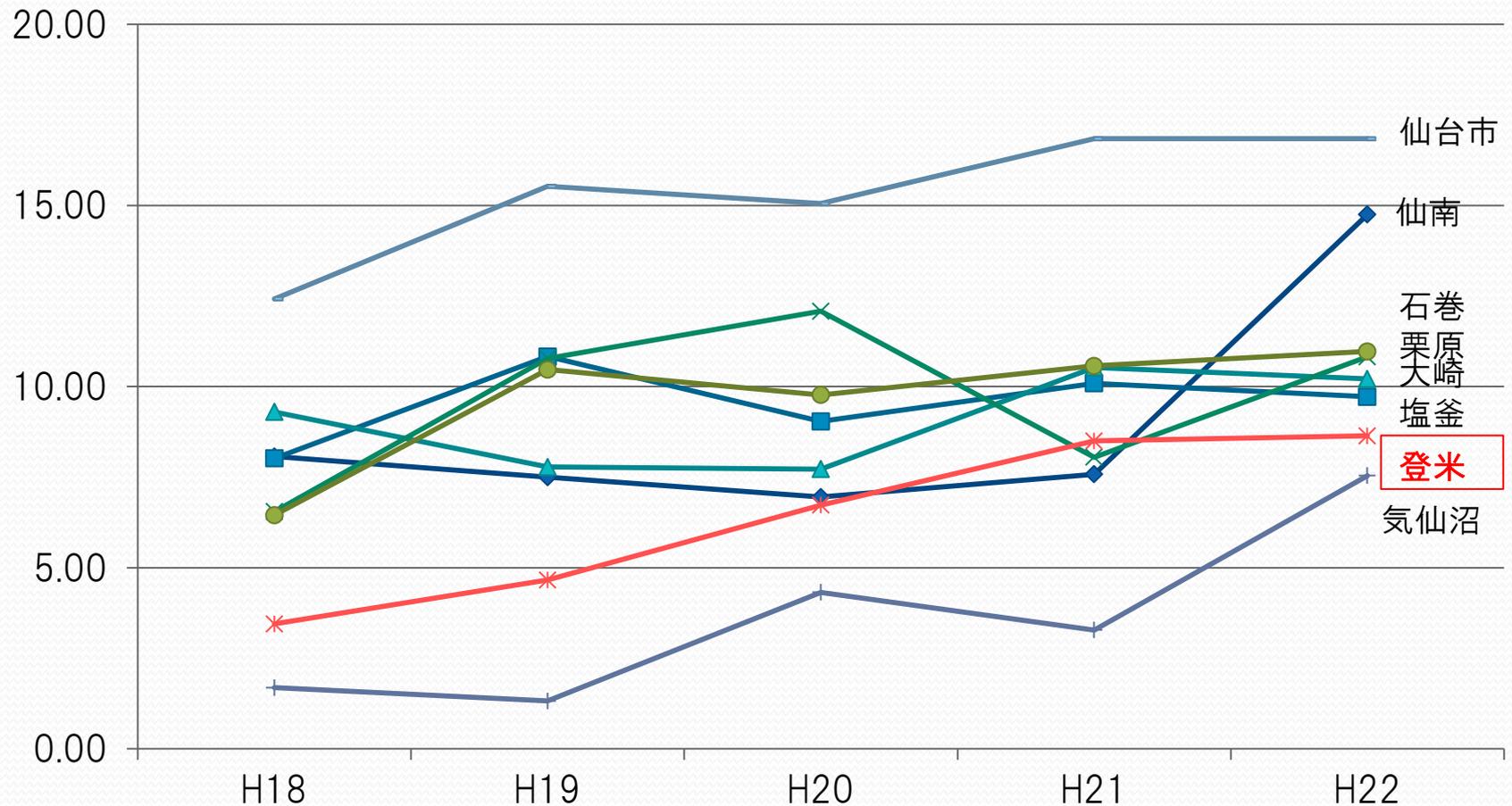
登米地域の現状(1)

- **がん診療連携拠点病院空白地域であり、在宅療養支援に係る医療資源が不足している。**

保健所管内	がん診療連携拠点病院	在宅療養支援診療所数	訪問看護ステーション数	訪問薬剤管理指導薬局数
仙台市	仙台医療センター 東北大学病院 東北薬科大学病院 東北労災病院	58	57	321
仙南	なし	8	5	40
塩釜	県立がんセンター	32	19	98
大崎	大崎市民病院	8	11	42
栗原	なし	8	3	25
登米	なし	3	2	17
石巻	石巻赤十字病院	14	11	49
気仙沼	なし	8	4	16

登米地域の現状(2)

- 在宅看取り率が低い。



登米地域の現状(3)

- がんに係る相談体制は十分ではない。

圏域	がん診療連携拠点病院	相談窓口を設置している病院等	患者会数
仙台	仙台医療センター 東北大学病院 東北薬科大学病院 東北労災病院	仙台オープン病院 仙台厚生病院 仙台市立病院 宮城社会保険病院 東北公済病院 宮城県がん総合支援センター	11
仙南		公立刈田総合病院 みやぎ県南中核病院	2
仙台	県立がんセンター		1
大崎	大崎市民病院	永仁会病院	4
栗原		栗原中央病院	0
登米		登米市立登米市民病院	2
石巻	石巻赤十字病院		3
気仙沼		気仙沼市立病院	0

課題の整理

- 当事者の声を聞く
- 関係者の声を聞く

在宅緩和ケアに関する住民教育が必要

- ・登米市民病院地域医療連携室
- ・登米市健康推進課
- ・東北大学病院がんセンター
- ・市内在宅療養支援診療所
- ・登米市立病院
- ・地域包括支援センター
- ・訪問看護ステーション

退院時は在宅サービスを必要としない人の情報が入ってこない。状態が悪化してから相談に来る

・いろいろ悩み事があるが、誰に相談していいかわからない
・退院してしばらく経ってから不安になる

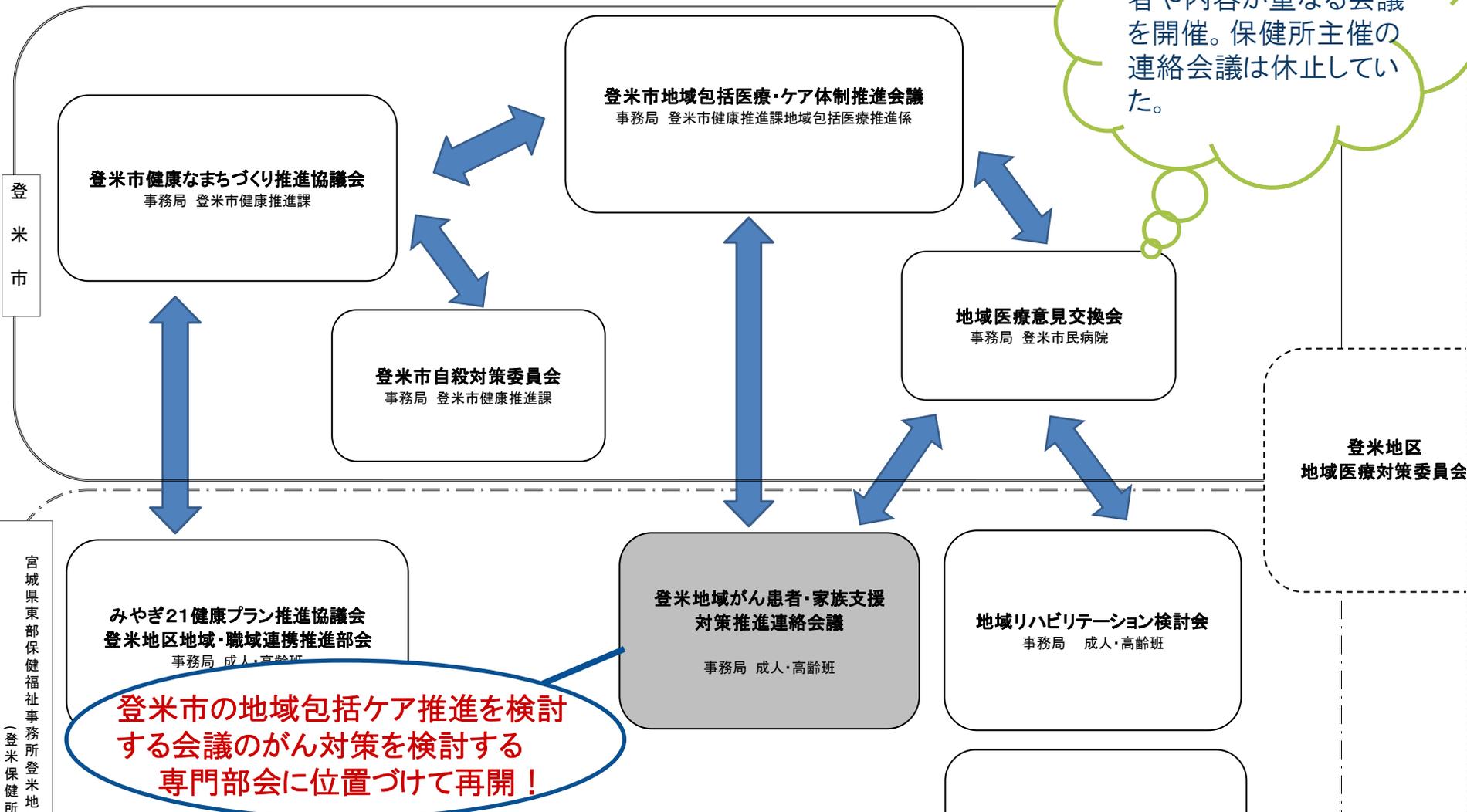
病院の中におかれていると各機関の間の調整が難しい
→保健所の力を借りたい

・家族が終末期であっても病院での治療を望み、在宅療養を希望しない
・ターミナル期の在宅緩和ケアに不安を持っている

連絡会議の再開

登米市の地域包括医療・ケアを推進するための検討組織

登米市民病院が参集者や内容が重なる会議を開催。保健所主催の連絡会議は休止していた。



「できることから」取り組もう

取り上げた課題

退院時、在宅サービスを必要としない患者についての情報提供がない

患者・家族が悩みごとをもどこに相談したらよいかわからない

家族が、
・終末期でも病院での治療を望み在宅療養を希望しない
・ターミナル期の在宅緩和ケアに不安を持っている

情報提供・連携の不足

対策

関係者の「顔のみえる関係」づくりの推進

相談窓口に関する情報提供の強化

市民向け在宅緩和ケア普及啓発「市民と共に」

病院と地域の連携強化

具体的取り組み

がん患者のケア等に関する関係者研修会

がん患者・家族地域支援推進連絡会議

ワーキンググループ

- ・リーフレット作成
- ・課題の検討
- ・市民講座の企画

在宅緩和ケア普及・啓発市民講座

- ・講話
- ・寸劇

地域の在宅療養支援の体制整備

ワーキンググループ

目的：連絡会議で出された課題や取り組み方針を具体的に検討する

○相談窓口情報整理シートの作成

どんな相談が多いかを出し合おう → どこに相談したらよいか考えよう
→課題を整理し、解決方法を考えよう



ワーキングメンバー12人

- ・診療所医師
- ・在宅療養支援診療所医師
- ・歯科医院歯科医師
- ・薬局薬剤師
- ・病院薬剤部長
- ・病院看護師
- ・病院地域医療連携室看護師
- ・訪問看護ステーション看護師
- ・地域包括支援センター介護支援専門員
- ・特別養護老人ホーム介護支援専門員
- ・患者会代表
- ・登米市健康推進課保健師

登米市内のがんに関する相談窓口情報ガイド

平成25年10月



がんと診断されて・・・

がんと診断された方

がんと診断された方やそのご家族のみなさんへ

入院治療が終わり退院される方



介護サービスが必要ない方も・・・

登米市内の「がんに関する相談窓口」等の情報ガイドです。



ご家族や知人ががんと診断された方



がんは、大人の2人に1人がかかる身近な病気です。長い経過をたどり慢性疾患とも言われます。病気の治療で様々な影響が出てきます。不安を抱え込まず、相談できる専門家、そして同じ体験をしている方にあなたの気持ちを話してみませんか。



話したい、こんなこと

- 病気や治療のことが心配
- 仕事や生活のことが心配
- 身体・心のことを相談したい
- 医療費のことを相談したい
- 将来のことが不安
- いろいろな不安がある・・・など

➡ がんに関する相談がしたい

➡ 患者会・サロンに参加したい

➡ 自宅で療養したい

➡ ことと身体の健康について相談したい

（内容）

- ・登米市内のがん相談窓口、患者会、在宅医療に関する機関等、地域包括支援センター、行政機関等の相談内容と連絡先等

（活用）

- ・他圏域を含め医療機関で退院時に配布
- ・各関係機関等で相談時に活用

（配布先）

- ・がん診療連携拠点病院、登米市近辺の病院、化学療法実施・がん相談室のある病院
 - ・登米市医師会→市内医療機関
 - ・歯科医師会 ・薬剤師会
 - ・市地域包括支援センター
- ※当所ホームページにも掲載

移動研修

目的：リーフレットの活用促進、顔の見える関係づくり



実施日	研修先
H25.11.27	石巻赤十字病院 (大崎市民病院)
H25.12.5	岩手県立磐井病院 (栗原中央病院)
H25.12.13	東北大学病院 県立がんセンター 仙台医療センター 東北薬科大学病院

参加者

登米市民病院地域医療連携室室長補佐
// 看護師
登米市訪問看護ステーション管理者
登米市地域包括支援センター管理者
登米市健康推進課保健師

がん患者・家族支援対策推進事業関係者研修会

目的：がん患者及び家族等の支援に関わる関係者が、在宅緩和ケアの実際、在宅緩和ケアに必要な支援体制をイメージできる。

開催月	内 容	出席者	参加者の反応
平成24年12月	講 演 「仙南地区におけるがん患者への在宅療養支援について ～自宅で最期まで自分らしく生きるために～」 講師：ウィメンズクリニック金上 副院長 安藤 ひろみ 氏	医療・保健・介護関係者 115人	・医療と介護の連携や多職種連携の必要性を感じた。 ・在宅ケアのプロセスがわかった。 という声があった。
平成25年6月	話題提供 「薬局における在宅医療への取組みについて」 登米保健所 食品薬事班 技師 高橋 由理 講演 「在宅緩和ケアにおける薬剤師の役割と連携について ～仙南地区におけるチーム支援の実際～」 講師：(有)メディファル コスモ薬局 薬剤師 瀬戸 裕一氏	医療・保健・介護関係者 102人	・在宅ケアに薬剤師がどのように関わるのかがわかった。 ・チームケアの大切さがわかった。 ・仙南のような自主勉強会を望む。 という声があった。

在宅緩和ケア普及・啓発市民講座

テーマ：病気になっても自分らしく生きるために

目的：登米市地域の患者・家族及び市民が地域の医療福祉の現状と課題を知り、在宅緩和ケアやサービスの活用の仕方を理解して、「自分らしい最後の迎え方」を考えるきっかけとなることを目的とする。

主催：登米市、東北大学病院がんセンター先進包括的がん医療推進室、登米保健所

出席者：県民118人、医療・保健・福祉関係者102人 計220人

開催月	次第	内容
平成 25年 10月	あいさつ 登米市長 布施 尚孝	
	講演 「医療と介護を取り巻く現状と在宅緩和ケアの推進に向けて」 講師 東北大学病院がんセンター 先進包括がん医療推進室 中山 康子氏	医療と介護を取り巻く現状を知ってもらい、地域で支え合い、市民と共に在宅緩和ケアを進めていく必要がある。
	登米地域の医療・福祉・介護・患者会等の情報提供 * 別室で展示も実施	作成した「登米市のがん相談窓口情報ガイド」に記載されている薬剤師、地域包括支援センター等から一言ずつ活動紹介する。
	寸劇 「あなたや家族ががんと診断されたら」 登米地域がん患者・家族支援対策推進連絡会議メンバー等	病院長や市関係者などがキャスト、がんを告知された患者と家族の悩みや在宅療養になるまでの関係者の支援を劇で伝えた。

市民講座の様子

市長あいさつ



講演



寸劇



登米地域の医療、介護、患者会等に関する情報提供



患者会代表



薬剤師



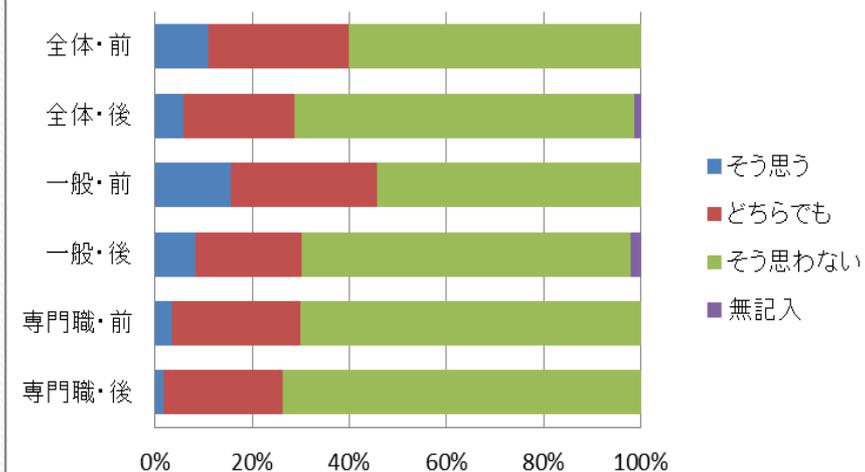
地域包括支援センター

情報コーナー

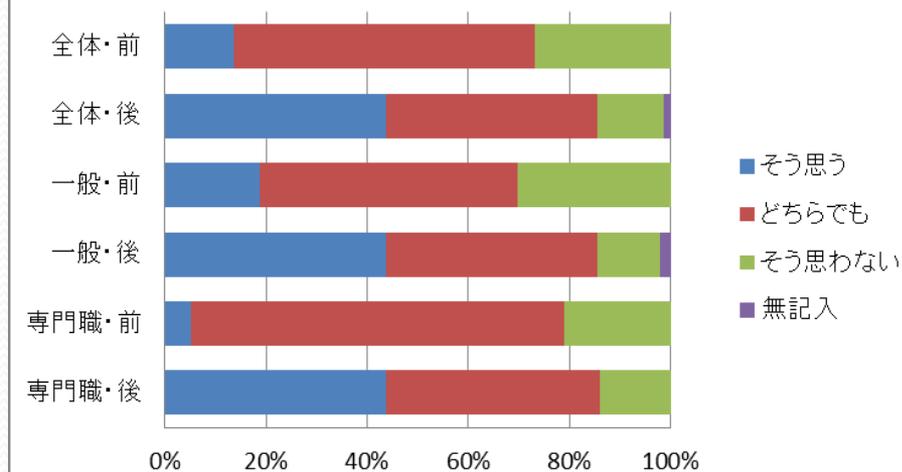


市民講座(アンケート結果)

⑨自宅での看取りは世間体が悪い



⑩この地域でがんになっても安心して過ごせる



【感想】

- ・寸劇・講演がわかりやすかった
- ・緩和ケアについて理解できた。
- ・相談窓口やサービスを知ることによって安心できた。
- ・一人暮らしでもサービスに支えてもらえることがわかり気持ち became 楽になった。
- ・自分のこととして考えることができた
- ・がんにかかる前から家族で話し合いたい。
- ・在宅療養を前向きに捉えられた。

取り組みの成果と課題

- 管内関係機関の調整に保健所の力が求められていた。
- 顔の見える関係づくりに取り組んだことで、在宅療養支援診療所を中心に自主勉強会が開始された。また、登米市の保健・福祉部門と市民病院地域医療連携室の連携が強化され、がんだけでなく、地域包括ケア推進に向けて一丸となった取り組みへの機運が高まった。
- 市民講座で、市民の関心の高さを関係者が実感したことも各々の取り組みを促進させている。
- 在宅緩和ケアを定着させるには継続した市民への働きかけが必要である。
- 事業に参加した薬剤師、歯科医師から在宅医療に関わりたいという意向を示され、当事者を含めた多職種連携の推進、市民との共同による在宅緩和ケア体制の整備を図っていきたい。

まとめ

- 在宅療養の体制整備は一朝一夕でなされるものではないが、**できることから取り組む**ということで、目に見えるものを作り上げていくプロセスを通して、**関係者のネットワークづくりと意識向上**を図ることができた。
- 本事業を通じ、“**保健所は地域の健康課題をつかみ、関係者をつなぎ、動かす役割がある**”と改めて認識した。

登米地域がん患者・家族支援対策推進事業

第2期宮城県がん対策推進計画（H25～H29）

がんをめぐる
現状と課題

在宅療養体制の未充足

住み慣れた家庭や地域で療養したい
↓
在宅で療養を促進する体制整備

患者・家族の苦痛・不安

終末期に必要なケア
身体的苦痛のケアさえ不十分
↓
がんと診断された時から患者及び家族の心のケアも

悩みを話し合う相手が必要
↓
同じ境遇にある者や同じ悩みを持つ者と話し、不安を解消する場

がん情報の発信不足

基本的情報、治療方法に関する情報不足
↓
不安の増大

医療機関を選択する際の医療機能情報を発信している病院が少ない

具体的な
取組

◆がんと診断された時からの緩和ケアの推進
○地域の医療・介護サービス提供体制の充実
→在宅療養の推進

◆情報提供と相談支援機能の充実
○患者会等の充実
○情報提供と相談支援機能の充実
○患者の就労等を含めた社会的問題への対応

平成25年度 登米地域がん患者・家族支援対策推進事業

◆登米地域の課題の把握や取組方針の検討（体制整備の推進）

○登米地域がん患者・家族支援対策推進連絡会議

地域の医療・介護サービス提供体制の充実

◆専門職研修
○がん患者・家族支援対策推進事業関係者研修会
○がん医療講演会（共催）

情報提供と相談機能の充実

○登米地域がん患者・家族対策推進のためのワーキング
↓
○登米市内がん相談窓口情報ガイドの作成、配布
○移動研修会

◆市民への在宅緩和ケアに関する普及啓発
○在宅緩和ケア普及・啓発市民講座

登米市
地域包括医療・ケア
体制推進会議

地域医療意見交換会
（登米市民病院）

地域医療介護連携交流会
[OMC]（やまと在宅診療所）